

2009年度は、楠元医師の退職があり、内科系医師が2名となり、かつ、電子カルテのフル稼働も始まったこともあって、かなりハードな1年であった。

一方、脳外科医師の就任で脳血管疾患はまかせることができたため、循環器疾患、呼吸器疾患などを中心とした内科一般の患者の対応を行った。担当した患者数は年間で325名であった。うち循環器疾患が139例であった。

主な疾患の内訳は、心不全64例、不整脈22例、急性心筋梗塞13例、狭心症10例、弁膜症10例、大動脈疾患7例であった。相変わらず高齢者が多いが、特に今年度の印象に残ったのは、大動脈弁狭窄症+虚血性心疾患およびそれらに伴う心不全が多かったこと、それとたこつぼ心筋障害に伴う心不全が5例ほどあったことであった。

急性心筋梗塞	13
狭心症	10
大動脈疾患	7
心不全	64
不整脈	22
弁膜症	15
たこつぼ心筋障害	5

循環器系の主な検査は下記表に示す。今年度は、電子カルテへの移行などのために検査件数は減少している。

	2009	2008
心エコー	1,247	1,867
負荷エコー	65	115
トレッドミル	73	93
ホルター	127	154
頸部血管エコー	140	308
下肢血管エコー	148	331
ABI	164	429
心臓CT	17	26
血管CT, MRI	106	157

外来においては、内科系医師の減少もあり、担当患者数が増加しており、毎月900~1,000を超える数になった。狭心症や弁膜症などの循環器疾患でフォローしている患者だけでなく、高血圧、高脂血症、糖尿病などの生活習慣病の患者さんもかなり増加している。

禁煙外来は、今年度は光野医師に一任して継続することができた。

